

# 小学校外国語活動における自律的な教員を養成するためのカリキュラム開発とその実践

研究代表者：佐藤 佳子（敬愛大学国際学部専任講師）

共同研究者：執行 智子（敬愛大学国際学部非常勤講師）

カレイラ 松崎 順子（東京経済大学現代法学部准教授）

## 1 はじめに

敬愛大学国際学部こども学科では2011年度より小学校外国語活動に対応する科目として「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」の4つの講座を開設している。現在、大学の小学校教員課程に求められているのは文部科学省が定める外国語活動の目標に沿って、各学校の実態に合う授業を作り、実践できる教員を養成することである。したがって、本学では受講学生が将来、小学校教師として外国語活動を自律的に自校に合わせて作成し、中心となって授業を執り行えるような能力を養成するため、2014年度より既存のシラバスを改編し、「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」の4つの講座を効果的につなげるためのシラバス作成の研究と実践に取り組んでいる。改編の主な理由は、既存の小学校外国語活動に関する講座はいずれも講義中心であり、外国語活動を執り行うために求められている資質・能力を身に付けるためには体験型の学習を多く入れた系統的なカリキュラムを取り入れ、体系的に構成する必要であると考えたからである。本稿では、2015年度「共同研究」の助成により作成したカリキュラムを紹介する。

## 2 敬愛大学における小学校外国語活動指導者養成科目——シラバスの紹介

### 2.1 小学校英語Ⅰ

本学こども学科では、「小学校英語Ⅰ」の講座を1年次より設置しており、学科の学生全員が履修する。この講座が目指すところは、資料①の授業のねらいと到達目標が示すように、「子どもの発達、特に言語発達を理解し、小学校外国語活動の基本的な知識や理論、指導方法を学び、小学校外国語教育についての在り方を考える。様々なアクティビティを体験し、小学校外国語活動を担当する教師として適切な指導技能を理解するとともに、学生自身の英語運用能力の向上」である。この目標を達成するためにシラバスに配列した要素は主に、小学校外国語活動についての背景や概要、子どもの母語および外国語の習得とコミュニケーションの関係、アクティビティの体験、アクティビティの作成と発表、クラスルーム・イングリッシュの習得である。「小学校外国語活動を担当する教師」に求められている指導技能を理解するために必要な要素であると考え、シラバスにこれらを組み込み構成した。

## 資料① 2014年度 小学校英語 I シラバス

## 【授業のねらいと到達目標（150字以内）】

子どもの発達、特に言語発達を理解し、小学校外国語活動の基本的な知識や理論、指導方法を学び、小学校外国語教育についての在り方を考える。様々なアクティビティを体験し、小学校外国語活動を担当する教師として適切な指導技能を理解するとともに、学生自身の英語運用能力の向上を目指す。

## 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とグループワーク形式で実施する。

## 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

## 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。

## 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）、小学校英語について
第2回	小学校外国語活動について	概要（導入の背景、基本的な知識、めざすもの、MEXT指導要領、評価）
第3回	第二言語習得理論	母語の習得、外国語（第二言語）の習得
第4回	外国語指導方法およびClassroom English①	授業で使える英語表現
第5回	外国語指導方法およびClassroom English②	TPR, Communicative Language Teaching
第6回	Activities①	songs, chants
第7回	Activities②	games
第8回	Activities③	picture books
第9回	Activityの作成①	chants
第10回	Activityの作成②	games
第11回	Activityのプレゼンテーション	Activityの評価
第12回	Hi, friends! 考察	Hi, friends! にあるactivityの考察
第13回	授業計画について	レッスンプラン（通年の構成、単元シラバス）
第14回	教材について	ICTの活用、教材開発の仕方
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## 資料② 2015年度 小学校英語 I シラバス

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）、小学校英語について
第2回	小学校外国語活動について	概要（導入の背景、基本的な知識、めざすもの、MEXT指導要領、評価）
第3回	第二言語習得とコミュニケーション	第二言語習得とコミュニケーションと母語の習得、外国語（第二言語）の習得
第4回	Activities①	songs, chants, picture books
第5回	Activities②	games
第6回	Activities③	games
第7回	Hi, friends! 考察および教案の書き方考察	
第8回	Activityの作成①	
第9回	Activityの作成②	
第10回	Activityのプレゼンテーション	games
第11回	Activityのプレゼンテーション	Activityの評価
第12回	Activityのプレゼンテーション	Activityの評価
第13回	英語の音声	英語の音、調音位置
第14回	Phonics	文字と音
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

授業の進め方は、講義を中心ではなく、2014年度は「講義とグループワーク形式」で実施した。さらに2015年度は「講義とグループワーク形式」に「体験型の学習」を加えた。

2015年度のシラバスの特色を説明するために、はじめに2014年度のシラバスを概観する。資料①2014年度のシラバスからわかるように、第1回から第5回の授業では、外国語活動全般に関する知識、子どもの言語発達を理解するための理論や指導法、クラスルーム・イングリッシュを取り上げた。第6回以降の授業では、アクティビティを紹介するとともに、実際に様々な種類のアクティビティを体験する機会を設けた。アクティビティを決め、それを潤滑に行う手順を考え、発表することを行った。1年次からアクティビティ作成に関する知識と経験があると、2年次以降に取り組む授業案の作成や模擬授業型のグループ発表がスムーズに行えると考えたからである。

2014年度に実施したシラバスを踏まえ、2015年度のシラバスでは、資料②にあるように、2014年度のシラバスを一部改訂した。主な改訂は、アクティビティのプレゼンテーション回数を増やし、学生自身が授業の中で指導者として体験する場を多くしたことである。また、2014年度に行ったクラスルーム・イングリッシュの紹介や練習は、2015年度のシラバスでは英語らしい音声を発するようにフォニックスを優先的に導入し行った。改訂した主な理由は、実践を通して外国語活動の知識だけでなく、小学校教師に求められているパフォーマンス力や考える力が身につくと思われることから、学生の主体的な参加の場を多くした方が望ましいと考えたからである。

## 2.2 小学校英語Ⅱ

「小学校英語Ⅱ」は「小学校英語Ⅰ」の継続的発展的科目として2年次を対象に開講している講座である。こども学科の必修科目である。この講座のねらいと到達目標は、資料③が示すように、「小学校外国語活動を担当する教師として適切な技能を、実践を通して、理解し深めていくこと」とした。具体的にはこれまで学んできた一つひとつのアクティビティを有機的に組み合わせることでレクチャーに作り上げていく作業を中心にグループで取り組むことを通じて、外国語活動を担当する小学校教師が必要とする適切な技能を身に付けることを目標とした。引き続き、クラスルーム・イングリッシュの習得にも力を入れ、受講学生の英語運用能力の向上を目指した。到達目標を達成するために用意した主な項目は、小学校外国語活動に関する基本的な知識、第二言語習得論、指導法、アクティビティの紹介、45分のレクチャーの作成、模擬授業形式の発表、である。一つのアクティビティ

### 資料③ 2014年度 小学校英語Ⅱシラバス

#### 【授業のねらいと到達目標（150文字以内）】

この授業では、小学校外国語活動を担当する教師として適切な技能を、実践を通して、理解し深めていくことをねらいとする。今学期は、これまで学んできた一つひとつのActivityをレクチャーにつなげていく作業を中心にグループで取り組む。Classroom Englishなどの英語運用能力の向上を目指す。

#### 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とグループワーク形式で実施する。

#### 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

#### 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。

#### 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得
第4回	外国語指導方法およびClassroom English①	授業で使える英語表現、phonics
第5回	外国語指導方法およびClassroom English②	TPR, Communicative Language Teaching, phonics
第6回	Activities①	songs, chants
第7回	Activities②	games
第8回	Activities③	picture books
第9回	英語学習理論	input theory, interaction theory, output hypothesis
第10回	グループワーク①	chants, songs, games
第11回	グループワーク②	chants, songs
第12回	グループワーク③	chants, games
第13回	グループワーク④	picture books
第14回	グループワーク⑤	picture books, games
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## 資料④ 2015年度 小学校英語Ⅱ シラバス

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得
第4回	Classroom English	授業で使える英語表現
第5回	Classroom English	授業で使える英語表現
第6回	activityの組み合わせ方	
第7回	<i>Hi, friends!</i> の分析・発表	
第8回	<i>Hi, friends!</i> の分析・発表	
第9回	レッスンプラン作成	
第10回	レッスンプラン作成	
第11回	発表	
第12回	発表	
第13回	発表	
第14回	発表	
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

のプランを英語で書く作業も行った。

授業の進め方に関しては、「小学校英語Ⅰ」と同様、2014年度は「講義とグループワーク形式」で実施し、2015年度は、それに加えて「体験型の学習」を重視した。

2015年度に実施した「小学校英語Ⅱ」のシラバスは、基本的には2014年度のシラバス内容を踏襲したが、2015年度のシラバスで改訂を試みた部分は、資料④が示すように、文部科学省作成の共通教材*Hi, friends!*の分析やレッスンプランの作成を加えた。今回の改訂に至る経緯は、2014年度と2015年度のシラバスの違いは、それぞれの受講学生が受けてきた「小学校英語Ⅰ」が異なるためである。つまり、2014年度の受講学生は、本研究以前のシラバスを経験しているため、また、2015年度の受講学生は本研究で改訂した2014年度の「小学校英語Ⅰ」を体験しているからである。

### 2.3 小学校英語指導法Ⅰ

「小学校英語指導法Ⅰ」はこども学科3年次対象の必修科目である。この講座の主なねら

## 資料⑤ 2014年度 小学校英語指導法Ⅰシラバス

## 【授業のねらいと到達目標（150字以内）】

小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。LESSONプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。

## 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とゼミ形式で実施する。

## 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

## 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。

## 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach
第4回	外国語教授法および外国語学習②	Content-based, Task-based, MI, immersion
第5回	教材研究①	教材開発の仕方
第6回	教材研究②	ICTの活用
第7回	評価について	評価方法の実際
第8回	LESSONプラン作成①	プロジェクト作成①
第9回	LESSONプラン作成②	プロジェクト作成②
第10回	発表①	模擬授業①
第11回	発表②	模擬授業②
第12回	発表③	模擬授業③
第13回	発表④	模擬授業④
第14回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## 資料⑥ 2015年度 小学校英語指導法Ⅰシラバス

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	外国語教授法	communicative approach, Content-based, Task-based, MI, immersion
第4回	ねらいと評価について	
第5回	Hi, friends! の分析（ねらいと評価）	
第6回	プロジェクト型について	Project-based
第7回	プロジェクト型紹介	Project-based
第8回	LESSONプラン作成	プロジェクト作成①
第9回	LESSONプラン作成	プロジェクト作成②
第10回	LESSONプラン作成	プロジェクト作成③
第11回	発表	模擬授業①
第12回	発表	模擬授業②
第13回	発表	模擬授業③
第14回	発表	模擬授業④
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

いと到達目標は、資料⑤が示すように、「小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する」ことと設定した。具体的には「レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める」ことに焦点を当て、小学校教師に求められている能力が身に付けられるようにシラバスを作成した。また、英語運用能力の向上にも力を入れた。

まず2014年度で作成したシラバスは資料⑤の通りである。科目の特色は、レッスンプランの作成と模擬授業型の発表を通して実践力を身に付けることである。模擬授業型の発表をグループ単位で行い、学級担任とALT（外国語指導助手）の役割について考えた。

## 2.4 小学校英語指導法Ⅱ

「小学校英語指導法Ⅱ」も子ども学科3年次対象の講座であり、「小学校英語指導法Ⅰ」に続く発展科目として設置している。つまり「小学校英語指導法Ⅰ」を履修した学生が引き続き履修する。したがって、「小学校英語指導法Ⅰ」で修得した内容を踏まえ、引き続き「小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する」ことが主なねらいである。「レッスンプランの作成、模擬授業の実践」を通して小学校教師に求められている柔軟性のある能力が身に付けられるシラバスを試みた。小学校教師として必要な能力は「指導技能の習得」、「教材研究」、「授業の進め方」、「英語運用能力」であると考え、これらの能力の向

### 資料⑦ 2014年度 小学校英語指導法Ⅱシラバス

#### 【授業のねらいと到達目標（150字以内）】

小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。

#### 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とゼミ形式で実施する。

#### 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

#### 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。

#### 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach
第4回	外国語教授法および外国語学習②	Content-based, Task-based, MI, immersion
第5回	教材研究①	教材開発の仕方
第6回	教材研究②	ICTの活用
第7回	評価について	評価方法の実際
第8回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①
第9回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②
第10回	発表①	模擬授業①
第11回	発表②	模擬授業②
第12回	発表③	模擬授業③
第13回	発表④	模擬授業④
第14回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## 資料⑧ 2015年度 小学校英語指導法Ⅱ シラバス

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と今後（2020年）を見越して
第3回	外国語教授法および外国語学習、CLILについて	communicative approach, Content-based, Task-based, MI, immersion CLIL
第4回	Phonics	
第5回	教材研究①	チャンツ、歌、絵本の活用
第6回	教材研究②	ICTの活用、作成
第7回	シラバスデザイン 5～6年生	
第8回	単元作成①	単元作成と評価
第9回	単元作成②	単元作成
第10回	単元作成③	単元作成
第11回	発表①	模擬授業①
第12回	発表②	模擬授業②
第13回	発表③	模擬授業③
第14回	発表④	模擬授業④
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

上を目指すため、年間のレッスンプランの作成、単元の作成に焦点を当てた模擬授業型の発表をグループ単位で実践し、教師としての立場を意識した授業が展開できるように、2014年度ではプロジェクト型カリキュラムを2015年度では時代を先取りした。CLIL（言語内容統合学習型）やクロスカリキュラム型の教授法を取り入れ、レッスンプランの作成と模擬授業型の発表を多く配列したシラバス構成にした。

### 3 まとめ

敬愛大学こども学科では、小学校外国語活動を執り行える教員を養成するために2011年度より「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」の講座を開講している。将来学生が自校に合わせて授業を行うために、小学校教師に必要な能力が身につくよう、1年次から体系的に学べるためのカリキュラム開発に取り組んでいる。そのために、2014年度から各講座のシラバスの改編を試み、実践し、2015年度は、さらなる改訂を試みた。今後は、学生のアンケート調査の結果を分析し、学生が必要としている能力を検証していく。カリキュラムの開発とは、学生のニーズと実態に合うように改良しつづけることであり、実際に小学校教師に求められている能力に合わせてシラバスを改良していくことがカリキュラム開発である。

さとう・けいこ Keiko Sato

しぎょう・ともこ Tomoko Shigyo

かれいら・まつぎき・じゅんこ Junko Matsuzaki Carreira